

研究成果の刊行に関する一覧表

報告書

著者氏名	タイトル名	委員会名	URL	発行元	出版年
浅井鉄夫, 遠藤裕子, 釜范敏, 黒田誠, 境政人, 佐藤真澄, 四宮博人, 柴山恵吾, 田中宏明, 田村豊, 早川佳代子, 藤本修平, 松井珠乃, 御手洗聡, 村木優一, 矢野小夜子, 渡邊治雄	薬剤耐性 (AMR) ワンヘルス動向調査年次報告書 2018	薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会	https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000415561.pdf	厚生労働省	2018

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
飯沼由嗣	医療行為/治療関連感染症としての感染症	光山正雄	高齢者感染症: 超高齢化社会の課題と特徴	医薬ジャーナル社	大阪市	2016	139-147
野田洋子、飯沼由嗣	認知症患者の感染症とそのケア	光山正雄	高齢者感染症: 超高齢化社会の課題と特徴	医薬ジャーナル社	大阪市	2016	196-205

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shimada N, Kayama S, Shigemoto N, Hisatsune J, Kuwabara R, Nishio H, Yamasaki K, Wada Y, Sueda T, Ohge H, Sugai M	Complete nucleotide sequence of p KOI-34, an IncL/M plasmid carrying bla _{TEM} -34 in <i>Klebsiella oxytoca</i> isolated in Japan.	Antimicrob Agents Chemother	60(5)	3156-3162	2016
Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanaabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M.	Japanese antimicrobial consumption surveillance: first report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan (2009–2013).	J Glob Antimicrob Resist.	7	19-23	2016
Usuda D, Sangen R, Hashimoto Y, Muranaka E, Inuma Y, Kanda T.	Validation of a B-type natriuretic peptide as a prognostic marker in pneumonia patients: a prospective study.	BMJ Open	6(2)	e010440	2016

Kato D, Morioka H, Tomita Y, Iguchi M, Hirabayashi A, Tetsuka N, Sadomoto T, Hyoudo M, Mochizuki M, Osada Y, Yamamoto M, Kato Y, Inagaki T, Ichikawa K, Yagi T	Active surveillance in response to the identification of a single carbapenemase-producing Escherichia coli at a Japanese university hospital.	Journal of infection and chemotherapy	24(12)	1013-1015	2018
Morioka H, Nagao M, Yoshihara S, Ohge H, Kasahara K, Shigemoto N, Kajihara T, Mori M, Iguchi M, Tomita Y, Ichiyama S, Yagi T.	The first multi-centre point-prevalence survey in four Japanese university hospitals.	Journal of Hospital Infection	99(3)	325-331	2018
Kayama S, Yano R, Yamasaki K, Fukuda C, Nishimura K, Miyamoto H, Ohge H, Sugai M.	Rapid identification of carbapenemase-type blaGES and ESBL-type blaGES using multiplex PCR.	J Microbiol Methods	148	117-119	2018
Okumura Y, Kajihara T, Koba Y, Onodera M, Hara T, Tahara H, Ohdan H, Ohge H, Yokozaki M, Sugai M.	Multiple Intraabdominal Abscesses Caused by Mycoplasma hominis Infection Following Simultaneous Pancreas-Kidney Transplantation.	Ann Lab Med	38(4)	381-383	2018
八木哲也	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌について	Hos Com	13(2)	1-7	2016
八木哲也	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌に対する感染対策	化学療法の領域	32	2047-56	2016
桑原正雄, 大毛宏喜, 他	健康危機管理対策専門委員会調査研究報告書	広島医学	69(12)	886-898	2016
梶原俊毅, 繁本憲文, 大毛宏喜	尿路感染症におけるChoosing Wisely	レジデントノート	18(13)	2407-2414	2016
具 芳明	日常診療における抗菌薬適正使用	内科	118(5)	2407-2414	2016
具 芳明	抗菌薬使用量、削減できる？	INFECTION CONTROL	25(12)	903-907	2016
具 芳明	なぜ抗菌薬を大事に使う必要があるの？	レジデントノート	18(13)	2373-2381	2016
多賀允俊, 薄田大輔, 野田洋子, 飯沼由嗣, 西田祥啓, 山本康彦, 丹羽修.	比色法を用いた次亜塩素酸ナトリウム浸漬液塩素濃度測定の有効性と濃度変化に影響する因子	環境感染誌	31(5)	314-317	2016
野田洋子, 飯沼由嗣, 薄田大輔, 多賀允俊, 新町美雪, 前多一美, 前野聡子.	尿取り扱い時の衛生管理の見直しをきっかけとした蓄尿指示の適正化	環境感染誌	32(1)	23-28	2017

宇納英幸,仁木裕子,山田依里,河村佳江,田中佳,森田展代,飯沼由嗣.	尿中細菌が尿中クレアチニンの異常低値の原因となった1症例.	医学検査	67	254-58	2018
坂上有貴子,河合泰宏,飯沼由嗣,他	北陸地区における薬剤耐性グラム陰性桿菌の動向調査	日臨微誌	28	203-211	2018
櫻山誠也,志馬伸朗,大毛宏喜	救急医療における微生物検査の重要性 - 薬剤耐性菌動向を含めて	感染対策ICTジャーナル	13(1)	13-19	2018
木場由美子,櫻山誠也,長岡里枝,原稔典,奥村由美子,鴨川瑞樹,川下遙,小野寺一,北野弘之,梶原俊毅,鹿山鎮男,横崎典哉,菅井基行,大毛宏喜	広島大学病院で検出されたカルバペネム腸内細菌科細菌の臨床背景と遺伝子学的検討	日本臨床腸内微生物学会誌	20(1)	90-98	2018

学会発表

発表者氏名	発表タイトル名	学会名	開催場所	開催年月
Yoshiaki Gu, Mitsuo Kaku.	The Global Point Prevalence Survey of Antimicrobial Consumption and Resistance (Global-PPS): Results on Antimicrobial Prescriptions in Japanese Hospitals.	26th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases	Amsterdam, Netherlands	2016.4.
八木哲也	カルバペネム体制腸内細菌の危機管理	第86回日本感染症学会西日本地方会学術集会他2合同	沖縄	2016.11.
八木哲也	Trend of antimicrobial resistance in Japan	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017.1.
八木哲也	医療機関での多剤耐性菌対策再考 - 名大病院での取り組みも含めて -	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017.1.
長岡里枝,小野寺一,木場由美子,原稔典,城市由美子,古霜麻紀,梶原俊毅,繁本憲文,鹿山鎮男,横崎典哉,菅井基行,大毛宏喜	カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌における検出法の比較検討	第29回日本外科感染症学会総会・学術集会	東京	2016.11.
大毛宏喜,梶原俊毅,嶋田徳光,繁本憲文,原稔典,小野寺一,木場由美子,長岡里枝,奥村由美子,古霜麻紀,横崎典哉,鹿山鎮男,菅井基行	薬剤耐性グラム陰性菌感染症診療の現状と課題	第86回日本感染症学会西日本地方会学術集会他2合同	沖縄	2016.11.

村木優一，田辺正樹， 山崎大輔，中村明子， 新居晶恵，松島由実	JACS (Japan Antimicrobial Consumption System) を利用した抗菌薬使用量サーベイランスMACS (Mie Antimicrobial Consumption Surveillance) の構築	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017.2.
村木優一，八木哲也， 山崎大輔，田辺正樹， 藤本修平，村上啓雄	我が国における抗真菌薬の使用動向 (2005～2013年)	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017.2.
村木優一	キャンディン系抗真菌薬(ミカファンギン・カスポファンギン)におけるブレイクポイントについて再考する	第64回日本化学療法学会総会	神戸	2016.6.
村木優一	耐性菌対策に立ち向かう薬剤師に必要な知識とツールを考える！-Japan Antimicrobial Consumption Surveillance (JACS)をどう活かすか？- JACSを取り巻く現状と今後	第26回 日本医療薬学会年会	京都	2016.9.
村木優一	抗真菌薬の適正使用に薬剤師は具体的にどう関わるべきか	第26回 日本医療薬学会年会	京都	2016.9.
村木優一	抗真菌薬を用いた治療において薬剤師として介入すべきこと	第26回 日本医療薬学会年会	東京	2016.10.
村木優一	自施設において抗菌薬使用量をどう調査し、AMR対策に活かすのか	東海ブロック学術大会	岐阜	2016.10.
村木優一	我が国における抗微生物薬使用に関する調査と監視	第32回日本環境感染学会総会・学術集会	神戸	2017.2.
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) 構想とその実現	第75回日本公衆衛生学会総会	大阪	2016.10.
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) 構想とその実現	第75回日本公衆衛生学会総会	大阪	2016.10.
藤本修平	JANIS 検査部門データの活用の現状と今後：2DCM-web とRICSSでAMRと戦う	第29回日本外科感染症学会総会・学術集会	東京	2016.11.
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) について	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017.1.
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) の開発	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017.2.
藤本修平	耐性菌と戦うサーベイランスシステム：日本の耐性菌対策を支えるJANIS, JACS, RICSS の現状と将来	第90回日本細菌学会総会	仙台	2017.3.

薄田大輔, 多賀允俊, 山本康彦, 飯沼由嗣	当院における市中発症ESBL 産生腸内細菌科細菌感染症 の解析	第90回日本感染症学会総 会・学術講演会	仙台	2016.4.
八木哲也	海外における多剤耐性グラ ム陰性桿菌の現状	第92回日本感染症学会学術 講演会/第66回日本化学療 法学会総会/合同学会	岡山	2018.5-6.
井口光孝,原 祐樹,手 塚宜行,森岡 悠,平林 亜希,富田ゆうか,加藤 大三,八木哲也	愛知県内のカルバペネマー ゼ産生腸内細菌科細菌の動 向調査(第一報) 疫学	第92回日本感染症学会学術 講演会/第66回日本化学療 法学会総会/合同学会	岡山	2018.5-6.
原 祐樹,井口光孝,手 塚宜行,森岡 悠,平林 亜希,富田ゆうか,加藤 大三,八木哲也	愛知県内のカルバペネマー ゼ産生腸内細菌科細菌の動 向調査(第二報) 遺伝子解 析	第92回日本感染症学会学術 講演会/第66回日本化学療 法学会総会/合同学会	岡山	2018.5-6.
八木哲也	カルバペネム耐性腸内細菌 科細菌の感染対策	第88回日本感染症学会西日 本地方会学術集会/第61回 日本感染症学会中日本地方 会学術集会/ 第66回日本化 学療法学会西日本支部総会	鹿児島	2018.11.
森岡悠,長尾美紀,吉原 真吾,大毛宏喜,笠原敬 夫,繁本憲文,梶原俊毅, 森美菜子,井口光孝,富 田ゆうか,一山 智,八 木哲也	Point prevalence survey によ る4大学病院の病院疫学	第88回日本感染症学会西日 本地方会学術集会/ 第61回 日本感染症学会中日本地方 会学術集会/ 第66回日本化 学療法学会西日本支部総会 合同学会	鹿児島	2018.11.
原 祐樹,井口光孝,八 木哲也	耐性菌表現型検査としての Multiple Disk Synergy Test の 性能評価	第30回日本臨床微生物学会 総会・学術集会	東京	2019.2.
飯沼由嗣, 村竜輝、河 合泰宏	北陸地区で分離されたESBL 産生大腸菌の解析	第88回日本感染症学会西日 本地方会学術集会/ 第61回 日本感染症学会中日本地方 会学術集会/ 第66回日本化 学療法学会西日本支部総会 合同学会)	鹿児島	2018.11.
鹿山鎮男, 横田和久, 大毛 宏喜, 菅井基行	広島県内の医療施設にて中 国からの帰国者より分離さ れたstring test 陽性 bla_{KPC-2} 保 有 <i>K.pneumoniae</i> の解析	第92回日本感染症学会学術 講演会 第66回日本化学療 法学会総会 合同学会	岡山	2018.5-6.
原 稔典,鹿山鎮男,木場 由美子, 北野弘之,梶原 俊毅, 小野寺 一,横崎 典哉,大毛 宏喜, 菅井 基行	腸内細菌科細菌における AmpC β -lactamase (ABL) 産 生菌のスクリーニング薬剤 とMICの検討	第92回日本感染症学会学術 講演会 第66回日本化学療 法学会総会 合同学会	岡山	2018.5-6.

池田光泰,桑原隆一,鹿山 鎮男,大毛宏喜,菅井基行	広島県におけるESBL産生菌とCREの検出状況(第9期調査)	第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会/ 第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会/ 第66回日本化学療法学会西日本支部総会	鹿児島	2018.11.
田寺加代子,鹿山鎮男,原 稔典,池田光泰,黒尾優太,宮本重彦,直原啓明,大毛 宏喜,菅井基行	核酸クロマト法を用いた,5種類のカルバペネマーゼ遺伝子検出キットの検討	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
鹿山 鎮 男 , Le Mi Nguyen Tra, 鈴木仁人, 矢原耕史, 横田和久, 柴山恵吾, 大毛宏喜, 菅井基行	広島県内の医療施設において分離された中国由来string test 陽性 <i>bla_{kpc-2}</i> 保有 <i>K.pneumoniae</i> の解析	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
池田光泰,桑原隆一,鹿山 鎮男,大毛宏喜,菅井基行	広島県におけるESBL産生菌とCPEの検出状況(第9期調査)	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
池田光泰,鹿山鎮男,田寺 加代子,黒尾優太,櫻山誠也,大毛宏喜,菅井基行	外部委託調査によりCREが検出された小規模長期療養型医療施設の耐性菌サーベイランス~NGSを用いた分	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
原 稔典,鹿山鎮男,木場由美子,田寺加代子,北野弘之,梶原俊毅,小野寺 一,横崎 哉,大毛宏喜,菅井基行	AmpC β-lactamase(ABL)産生菌のスクリーニングMIC値の検討	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
増田加奈子,久恒順三,高橋 伸,奥原俊彦,大毛 宏喜,菅井基行	西日本における皮膚感染症由来ST8 CA-MRSA/Jの分子疫学調査	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.
田寺加代子,鹿山鎮男,池田光泰,黒尾優太,櫻山 誠也,大毛宏喜,菅井基行	外部委託検査により CRE が検出された小規模長期療養型医療施設の耐性菌サーベイランス 耐性菌株の検出	第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京	2019.2.